

た、上陸したら畫題を得て帝展への出品が出来るだらう』〔下略〕

なお、映丘の海外旅行券請求案（昭和職員関係書類<sup>庶務掛</sup>）によれば、視察国はイタリヤ、フランス、ドイツ、スペイン、イギリス、アメリカ合衆国であった。

### ⑤ 矢代幸雄の欧米出張

昭和五年十月十一日、教授（帝国美術院附属美術研究所主任）矢代幸雄は文部省より欧州各国出張を命ぜられた。出張上申案（昭和職員関係書類<sup>庶務掛</sup>）には次のように記されている。

### 案

教官ヲ外國ニ出張セシムル件上申

官氏名 東京美術學校教授 矢代幸雄

出張地 歐洲各國

獨逸國、奧太利國、匈牙利國、希臘國、伊太利國

出張期間 昭和五年十一月初旬出發シ昭和六年末帰還ノ豫定ニテ

約九ヶ月間ノ見込

出張ノ目的

矢代教授ハ本校西洋美術史授業ノ擔任者ニシテ多年其研鑽ニ從事シ既ニ大正十年ヨリ同十三年ニ至ル間文部省在外研究員トシテ歐洲ニ滞在シ又昭和二年ヨリ翌三年ニ涉リ約一ヶ月間歐米各國ニ出張ヲ命ゼラレタルコトアリ 此ノ如ク一再歐洲ノ地ニ足迹ヲ印シ能ク其風土ニ通曉セル者ナリ 今回重ネテ歐洲へ出張

ヲ要スルハ従来ノ研究ニ漏タル處ヲ補足研究スル為ニ歐洲ヲ巡歴シ今古ノ美術品又ハ史蹟ヲ觀覽踏査シ并ニ歐洲最近美術界ノ趨向變遷等ヲ考察セシメントスルニ在リ 且又明年一月ヨリ五月ニ涉リ獨逸國柏林府及デウ（デュッセルドルフ）、セルドルフ市匈牙利國ブタペスト市ニ於テ開催セラル、日本美術展覽會ノ状況ヲ視察セシメ此等展覽會ニ依リテ日本美術ガ幾許ノ影響ヲ歐洲人ニ與ヘ隨テ其美術界ノ將來ニ如何ノ刺戟ト變化ヲ惹起スベキモノナルヤ等ニ就テモ考覈セシメタキナリ

旅費 本校校館費ノ内ヨリ支給ス

右記載ノ如キ事情ナルニ付矢代幸雄ニ歐洲各國へ出張ヲ命ズル御発令相成度上申候也

年 月 日

学校長

文部大臣宛

矢代は十一月九日東京を出発。シベリヤ經由で欧州に向かった。

右申案に記されているベルリンその他の日本美術展覽会とは当時日本美術（主に現代日本画）を広く海外に紹介しようという文化政策を背景として実施されたもので、昭和四年初夏のパリ、同五年春のローマにおける日本美術展覽会に引き続いて開催された。矢代にやや遅れて同月十八日にはベルリン展の委員として小室翠雲と広島晃甫も欧州へ向かった。開会式は翌六年一月十七日に行われ、矢代は「現代日本美術」と題して講演した。ベルリン、次いでデュッセルドルフ、そしてブダペストにおける展覽会が終了したのは同年五月二十日、矢代は同月十一日に帰国した。